

■アーティストトーク

して制作をしている現場から、皆さん一人一人にそこにあるものを持ってきていただいています。つまり、その人がアトリエでどういった制作活動をしているのか？そういうことが垣間見れるということなんです。お待ちせしました。たぶんあれが出て来るんですね、鈴木さん。

鈴木 小さいんでちょっと分かりづらいかもしれないんですけど。

おか これ？さっき言ってた？これどう分解するんですか？これがどうなるんですか？

鈴木 黒の部分は製作の工程上、細くなっちゃったら困るので繋がってて。なんかマスクみたいな。

おか ほんまや、タイガーマスクや。

鈴木 目とか鼻とか柄の部分が黄になってて、そこに穴の開いたマスク状の。

おか 穴開いてますわ、これ。まさか五十八歳にして皆さんに消しゴムを見せるとは思いませんでした。

鈴木 体とかも…

おか 体もバラバラになるんや。どうなるのこれ？中の黒い型というか…あっ、首とれた！ええー！今日一番の皆さんの「ええー」やね。また後で見てくださいね。これはケーキですね。

鈴木 ケーキも普通に見えるじゃないですか？可愛いケーキで。でもなんか開けたら、こういう状態になっていて。イチゴが全部中で繋がっていて、クリーム部分の穴になっている。挿したらちゃんとケーキに。

おか 鈴木さん、面白いわこれ！

鈴木 そうでしょ！？サンタとかね、めちゃくちゃ面白いんですよね。

おか サンタはどうなるの？

鈴木 サンタはね、白い部分が同じパーツなんですよ。ひげと服の白い部分が一個のパーツで、顔とかも…

おか 顔も取れるの？うわっ、ええー！

鈴木 サンタって普通子供に夢を与えるみたいな、可愛いもんやと思うんですけど、それを無情にも分解する。

おか はっきり言うけど、夢を壊してるもんね。

鈴木 これを製作してるイワコーっていう会社の人は別にそういう面白い分解をしたい訳じゃなく、工場の生産ライン上、仕方がなくて効率よくするために白のパーツをまともえているっていう。そこに面白いと思ってやっている訳じゃないっていうところが面白いなあって。

おか 工場の広報の人みたい。ちょっと待って、これちゃ

んとつくれるの？元に戻せる？サンタさんつくれる？すごいね。これをアトリエのところに置いてるということですか？

鈴木 家に持って帰ったり、学校に持って行ったり、持ち歩いて。今飾ってある作品は分解したものが現実の法則に従ってるというか、りんごの箱を分解したら、ほんまに中がそうなっているようにりんごが割れていると思うんですけど、次からは、実際にはありえないような形に分解するっていう。それでちょっと人をくすつと笑わせられる作品をつくりたいなって思ってます。

おか 今日のゲストは消しゴム博士の…、いや違うわ。へえー、面白いですね。ほんと博士になれますよ。後で皆さんもよかったら手に取ってみてください。続いて高畑さんのアトリエにあるものを。楽しいですね何が出てくるのかね。

高畑 ここから歩いて五分くらいのところにあるスーパーの箸の袋で、可愛いなって思ってたやつを壁に貼ってます。

おか えっ？

高畑 作品にはあんまり関係ないかもしれないけど。

おか そんなことないと思うけど、まだ何か出てくる？

高畑 石です。

おか えっ？

高畑 平べったい石をいいなーと思ってて、部屋に飾ってます。アトリエというか自分の部屋で作業しているので。

おか これは？

高畑 アイススクリームのふたです。コンビニとかで売ってるような。

おか これは？

高畑 飾ってます。作品には使ってないです。

おか 壁に貼ってるってことですか？

高畑 壁に貼ってます。アイスクリームのスプーンとか延着証明とかそういうの集めてて。

おか アイススクリームのスプーン飾ってるんですか？

高畑 木のやつとか。身近にあるものを集めるのが好きで。

おか こういうものを飾ってたらほっとする？

高畑 ほっとします。

おか 例えば、これ一個無くなったりしたらどうなるんですか？

高畑 無くなってもそんなに…。

おか えっ？大事なもののなんでしょ、これ。

高畑 大事やけど、無くなったらしゃあないですよ。そういう日もありますから。

おか この三つの中で一番愛着あるのはどれなんですか？

高畑 愛着あるのはスーパーマルハチが…。

おか 確かに裏のこれ可愛いな。パッケージとか。

高畑 こっちが私は表やと思ってて…。これがすごい好きで。

おか あの、Mr.さんとか奈良美智さんとかもそうなんですけど、ここにドロ잉とか描いたりして…

高畑 とかはしないで。

おか それはしない？ここに飾ってるのが楽しい？

高畑 壁を作っていくのが好きでやっぱり。

おか なるほど、これで壁を作るのが楽しいんだ。僕も含めたコレクターなんかも、壁に作品を埋め尽くしていくという傾向があるんですけど、それに近いですよ。

高畑 近いですね。

おか いやーすごい、これでお腹いっぱいやわ…。さあ、范さんは何なんでしょうか？

范 変わってるものじゃないんですけど、大学のとき暗室で印刷した写真です。普通のプリンターじゃなくて、暗室で大きなところ。暗い部屋に入って、引き伸ばし機で光を当てて印刷します。暗い部屋にいとすごく落ち着けるから結構にいて、五時間くらいずっと。

おか 暗室におれるんや。そういうところが落ち着くというか。

范 紙も普通の紙と違って印刷する前に光に当たったら終わります。印刷する前に絶対黒い袋に入っていてそのまま持って行って真っ暗の中で作業します。

おか これってずっとアトリエに置いてて、たまに見たりするんですか？

范 しますね。これは大学の時住んでいたアパートの近く、家の周りです。

おか それをずっと撮ってた訳や。たまにこういうの見たらあのときこうやったなとか思い出したりするんですか？

范 そうですね。

おか 一番現実的というか、どちらかというね。だから、ある意味家族って身の回りのものじゃないですか？身の回りのものの中に、何か一つちょっとしたヒントが隠されているのかなあ、范さんの場合。

范 環境に影響される人だから、ここにいるのは作品として大きな影響与えるから、環境とか周りの人とか結構

いろいろ影響されて作品を作ります。

おか 例えば友達の家行って、こんな壁に貼ってたらどう思います？

范 わたしは面白いと思う。

おか やっぱり芸術家やな。ありがとうございます。続いて肥後さん、何でしょうか？

肥後 二つあって、一つは持ってくるので、その間…

おか 何ですか？

肥後 カメラです。

おか これカメラなんですか？昔のカメラなんですか？

肥後 そうです、昔のカメラです。

おか これ写るんですか？

肥後 修復したら写ります。でもフィルムをここに掛けます。

おか あっこれフィルム掛けるとこなんだ。

肥後 ここで巻いて、多分ここで写ります。

おか ここでやるんや。結構古い…何を持ってきたんねん！

肥後 置き場所と使えなくて困ってるものです。このカメラは蚤の市で買ったんですけど、すごいちっちゃいのめっちゃこう…シャッターが切れて。ここから光が入って後ろにフィルムがあって写真ができるんですけど、こんな小さいのにちゃんと撮れるんやなって思ったんですけど、実はフィルムがすごい特殊なので使えなくて、結局使えないままずっとあって、これどうしようかになって思って、文鎮になってるんです。もう一つは蛍光灯なんですけど、これは卒制のときに使ったやつなんですけど、モノタロウで買ったんですけど、結構大きくて、蛍光灯ってなかなか使うことがなくて困ってて。

おか 使うから買ったんじゃないんですか？

肥後 使ったんですけど、今回の展示では使ってなくて、卒制の展示で使ったんですけど、あつそのときの話をすると、全然関係ないかもしれないんですけど、蛍光灯設置して、そこにある蛍光灯を取り替えたりずらしたりしてたんですよ卒制のときに。設置が終わって作品がいざできあがったなと思ったら、用務員のおじさんが二人来て、「蛍光灯切れてますよね、交換します」って二人組で蛍光灯取り替えようとしてて。明滅してるから切れてると思って交換しようとしてたんですよ。その話と全然関係ないですけど、そんなことがあり、結局今蛍光灯、これとも一つあるんですけど置き場所に困ってて。一応アトリエっていうか大学にあるんですけど困ってるものたちです。

おか 結構蛍光灯ってでかいもんね。